



ACCESS POINT
ARCHITECTURE-TOKYO

東京建築アクセスポイント設立記念トークイベント

建築へのアクセス Access to Architecture

2017年3月18日（土）17:00開催

「建築を見ること」について皆さんと一緒に広く考えたいと思い、設立記念イベントを開催します。「建築の見方がわからない」「古い建物を見るのが好き」「普段は入れない建物の見学をしたい」「街歩きが好き」「建築家や建てられた時代背景について知りたい」などなど、建築に興味のある方ならどなたでも参加できます。建築を見ること、体験すること、の楽しさを共有していきたいと思っています。お気軽にお越しください。

「一般社団法人 東京建築アクセスポイント」は昨年10月に設立した、東京にある建築文化資源を通じ、社会と人を結びつける公共性のある活動を展開していく団体です。設立メンバー5人は同じ志をもつ、建築のスペシャリストです。

会場：SHIBAURA HOUSE 〒108-0023 東京都港区芝浦 3-15-4

参加費：2000円（トークのみ）、3500円（ペア券ふたり分）、1500円（ツアー参加者）*ツアーは別途お申込ください

お申込み：PEATIX <http://peatix.com/event/243568/view> *当日、会場でも受け付けております

16:40～ 受付

17:00～ 開始 設立趣旨、活動方針

17:15～ 各メンバーによるトーク

18:20～ 5人による座談会「建築へのアクセス Access to Architecture」

19:10～ 設立記念パーティ（ささやかな懇親会）*ワンドリンク付

20:00 閉会

設立メンバー

和田菜穂子（建築史家）

磯達雄（建築ジャーナリスト・フリックスタジオ）

倉方俊輔（建築史家・大阪市立大学准教授）

若原一貴（建築家）

トム・ヘネガン（建築家・東京芸術大学教授）

*詳細プロフィールは公式ウェブサイトをご覧ください



お問い合わせ：一般社団法人東京建築アクセスポイント

Email: info@accesspoint.jp

電話：03-4400-1524 携帯：080-3750-5600（和田）

公式ウェブサイト： <http://accesspoint.jp/>



ACCESS POINT
ARCHITECTURE-TOKYO

トークイベントの前に、設立メンバー5人が《5つのトークツアー》を開催します

■ 《5つの建築トークツアー》参加費：3000円 *事前申込

2017年3月18日(土)

1. 磯達雄 異色のコンクリート建築「蟻鱒鳶ル」を探访する
2. 若原一貴 広尾から麻布十番界隈を巡る「歴史観察」+「路上建築鑑賞」の旅
3. 倉方俊輔 今月で見納め「ソニービル」を上から下に表裏を巡る
4. 和田菜穂子 メタボリズム建築を学ぶ基本編
5. Tom Heneghan UENO MUSEUMS

1. 異色のコンクリート建築「蟻鱒鳶ル」を探访する

磯達雄

13:00～ 品川駅集合

「蟻鱒鳶ル(ありますとんびる)」は、セルフビルド建築家の岡啓輔さんが建設している鉄筋コンクリート造の自邸です。地下を掘るのも、型枠を組むのも、コンクリートを打つのも、すべて自分で行なっています。工事を始めて10年を過ぎていますが、まだ完成していません。しかし、既に多くの人から関心を寄せられています。建築とは何か、建築をつくるとはどういう問題を強く訴えかけているからです。この異色の住宅を、内部も含めて見学します。当日は岡さんご本人も現場にいるので、本人からの解説もしてもらおう予定です。歩くコースは品川駅から、SIHIBAURAHOUSE(設計:妹島和世)まで。途中、高輪・三田のエリアにある教会や学校建築などを路上から鑑賞して楽しめます。

*お申込み: <http://peatix.com/event/243597/view>



「蟻鱒鳶ル」/岡啓輔 / 船越徹+ARCOM 設計「カトリック高輪教会」(1989)

2. 広尾から麻布十番界隈を巡る「歴史観察」+「路上建築鑑賞」の旅

若原一貴

10:00～ 広尾駅集合

広尾から麻布界隈を散策します。この辺りは江戸時代には多くの大名屋敷があり「狸坂」や「暗闇坂」といった名前の示すように起伏のある地形が特徴です。現在は緑の多い閑静な住宅地の中に大使館が多く点在する国際色豊かなエリアとして知られています。今回は麻布界隈の「歴史観察」と、槇文彦、吉村順三、大江宏、磯崎新、安藤忠雄、坂茂、といった著名な建築家の作品を巡る「路上建築鑑賞」の二つの側面からトークツアーを行いたいと思います。是非ご参加下さい。

*お申込み: <http://peatix.com/event/243589/view>



ACCESS POINT
ARCHITECTURE-TOKYO



大江宏設計「東京顕岐会館」(1971) / 榎文彦設計「オーストラリア大使館」(1976) / 吉村順三設計「在日ノルウェー王国大使館」(1974)

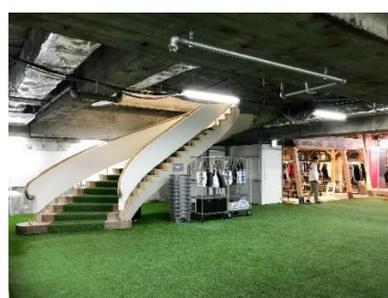
3. 今月で見納め「ソニービル」を上にも下に表裏を巡る ***定員になりました**

倉方俊輔

13:30～ 数寄屋橋交番前集合

「ソニービル」は1966年、世界の名品を紹介する複合ショールームとして数寄屋橋交差点に誕生しました。外壁のルーバーは精巧な電化製品を思わせます。奥には1/4階ごとに上昇するフロアが隠されています。斬新な発想で「縦の銀ブラ」を可能にした「花びら構造」と呼ばれる作りです。戦後、ソニーの名を世界にとどろかせた盛田昭夫のアイデアを、駒沢体育館などを手がけた名建築家・芦原義信が形にしました。2017年3月末、ソニービルは閉館し、「ソニーパークプロジェクト」が始まります。解体した地上部に、人びとの行動と街の可能性を静かに押し広げる「パーク」がつくれ、その実験は東京オリンピック後に建設される新しい建物にも引き継がれます。誰にも似てなくて、都会的であることのこれまでとこれからを散策しましょう。今回は特別に、一般には使わない裏動線や、竣工当時の内装が残された部屋も見学します。見納めとなる、地下の巨大な駐車場につながった都会の謎空間「THE PARK・ING GINZA」、スキップフロアで開催中の「It's a Sony 展」と併せて、その意味を語ります。

*お申込み：<http://peatix.com/event/243639/view>



芦原義信設計「ソニービル」(1966)

4. メタボリズム建築を学ぶ基本編 ***定員になりました**

和田菜穂子

9:30～ 新橋駅集合

四角い箱が積み木のように重なり、四方に向かって丸窓がついている建物をご存知ですか？これは黒川紀章が設計した「中銀カプセルタワービル」(1972)で、「メタボリズム建築」の代表格とされています。実は日本国外から見学希望者が後を絶たない、世界的に著名な建築なのです。「メタボリズム」とは1960年代に世界を席卷した日本発の建築運動の名称で「新陳代謝」を意味しています。社会の変化に応じて有機的に成長する都市や建築を構想し、当時の気鋭の建築家丹下健三、菊竹清訓、磯崎新、榎文彦らが様々な提案をしています。本ツアーは「メタボリズム建築とは何か」を学ぶ基本編とし、丹下健三設計の「静岡新聞・静岡放送東京支社ビル」(1968)の外観見学からスタートします。そして「中銀カプセルタワービル」の居室内にて資料をお見せしながら、「メタボリズム」について解説いたします。居室はたったの10㎡ですので、定員は5名です。みなさまのご参加をお待ちしてお



ACCESS POINT
ARCHITECTURE-TOKYO

ります。

*お申込み : <http://peatix.com/event/244213/view>



黒川紀章設計「中銀カプセルタワービル」(1972)

5. UENO MUSEUMS

Tom Heneghan

Meet : The National Museum of Western Art

Ueno Park hosts a large number of extremely important exhibition-spaces, of varying types. We will visit five: The National Museum of Western Art (1959) designed by Le Corbusier; The Metropolitan Festival Hall (1961) and The Metropolitan Art Museum (1975), both designed by Kunio Mayekawa; The National Library of Children's Literature (2002) designed by Tadao Ando; and The Gallery of Horyuji Treasures at Tokyo National Museum (1999) designed by Yoshio Taniguchi, where the tour will conclude. Visitors may then choose to make a self-guided tour of the other buildings of the National Museum, including the 'Toyokan'(1968) designed by Yoshiro Taniguchi - the father of Yoshio Taniguchi; and the 'Honkan'(1938) designed by Jin Watanabe which houses a staggering collection of Japanese artworks, from 10000 BC to the late 19th century. The guided tour mainly addresses the architecture of the five museums, and discusses the ideas that the designers were considering when they made the designs.

* Tour Booking : <http://peatix.com/event/244231/view>



The National Museum of Western Art (1959) designed by Le Corbusier / The Gallery of Horyuji Treasures at Tokyo National Museum (1999) designed by Yoshio Taniguchi